

「台湾大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学法学部2年 大南 英理

プログラムの時間割は、中国語の授業、英語での台湾の美術館・博物館に関する授業、台湾各地への遠足、の主に三つでした。第二外国語で中国語を選択していなかったため、中国語の授業では一番下のクラスに入り拼音と基本的な文法から始めました。教科書の例文が買い物の場面など街に出てすぐ使える文章だったことに加え、比較の文、形容詞の強調の方法など日本で売っている多くの中国語の文法書の順番と異なり、実際に日常会話で使いやすい表現を先に習いました。また、生徒は6人しかおらず先生との距離が近かったため、昨日の夜は何をしたかなども休み時間に中国語を使って7人で毎日話すことができ、授業の例文を発音する機会もたくさんありました。台湾の博物館の授業は、実際に遠足の一つとしてプログラムで博物館に行く機会があったので、事前に美術品の解説をきいて実物を見ることができて大変有意義なものでした。

プログラムの最後の週に観光で一人美術館巡りをしていた時、台湾の経済発展に貢献した人の家をそのまま保存してある私立美術館に立ち寄りました。展示品の説明をしてくれる学芸員の方に話しかけられ、その家の主の書斎机、奥さんへ宛てた手紙や晩年に身体が不自由になってからのリハビリ生活などを中国語で説明して頂き、拙い中国語で、知っている形容詞を集めて感想や相づちをうつことができたとき、プログラム前は話せなかった中国語が上達したと感じました。台湾大学の人々は英語も堪能なため、言語学習の面では高校で習った英語と中国語の両方を実際に使うことができ、他言語を習得する上で文法や単語を習い作文や会話として外に出す際自分の中でやらなければいけないことが見えてきたと思います。

大多數學生顧問已經在國外學習，他們能說英語。不過，我有時中國人，說英語不行。通過這樣做，我失去了機會，在中國說英語，也是我覺得這是不禮貌他們。每次當我回到宿舍時，我用字典查我不記得的話。我強烈地感到，我需要學習更多中國話告訴我的想法。我要感謝很多人拿這部分程序的輝煌，給了我特別的機會，學到很多東西。